

[平成12年 第3回定例会]-[10月04日-06号]-P. 340

◆6番(青山圭一) 通告をしました3点の質問の予定でしたが、3点目の職員住宅の件につきましては、事前の調査で理解をいたしましたので、今回は結構です。それでは、一問一答でお伺いいたします。

1点目、自転車等の対策について、建設局長にお伺いいたします。私も住んでおります多摩区におきまして、最近特に放置自転車等の状況がひどくなってきております。近隣の住民からも何とかしてほしいとした声をよく聞きますが、幾つかについて伺います。JR登戸駅周辺、小田急線生田駅周辺、小田急線読売ランド前駅周辺の放置自転車の状況と対策について伺います。また、その放置自転車の保管所の状況と対策についてもあわせて伺います。以上です。

○議長(小泉昭男) 建設局長。

◎建設局長(引野憲治) 放置自転車対策についてのご質問でございますが、本年5月23日の調査結果によりますと、JR登戸駅周辺の放置自転車台数は349台、小田急線生田駅周辺に664台、読売ランド前駅周辺に209台となっております。

次に、放置対策についてでございますが、放置防止の徹底を図るため、引き続き各種の啓発活動及び撤去活動を強化するとともに、新たな自転車等駐車場の確保に努めてまいります。

次に、保管所の状況とその対策についてでございますが、現在、多摩区内には撤去した自転車の保管所として、それぞれ800台程度収容規模の2カ所の保管所がございます。しかし、いずれも収容スペースに余裕がないため、計画的な撤去活動が図れないのが現状でございます。したがって、現在、多摩区内で保管所の確保へ向け努力しているところでございます。以上でございます。

○議長(小泉昭男) 青山議員。

◆6番(青山圭一) ご答弁をいただきましたが、次にもう少し具体的な場所について伺います。登戸駅第3自転車等駐車場の周辺において、登戸駅のガードのすぐ近くですが、この近くの道路に自転車があふれ返り、近隣住民の通行が非常に妨げられて、大変迷惑をこうむっているわけですが、この状況についての対策と見解について伺います。

また、小田急線生田駅南口の五反田川沿いの道路及び生田駅北口スロープ付近の放置自転車等の対策についても伺います。特に南口の五反田川沿い道路は道幅が非常に狭く、放置自転車等が散乱をしている状況であり、車の交通にも非常に支障を来しております。朝の忙しい時間帯には車が立ち往生し、ドライバーの中には、車が通れないために放置自転車を五反田川の中に放り投げる人もいます。また、この狭い道路を無理に車で通過しようとするため、自転車が車に絡まり近所の壁を破損被害をどうしてくれるということで、私にも相談がありました。昨日午後7時30分に生田駅南口、北口を調査したところ、放置自転車の数が生田駅南口では72台、北口では104台という数値でした。

また、生田駅南口の五反田川沿いの一つの対策として、五反田川を活用した駐輪場等の

対策検討ができないか、あわせて伺います。以上です。

○議長（小泉昭男） 建設局長。

◎建設局長（引野憲治） 放置自転車対策についてのご質問でございますが、まず、登戸駅第3自転車等駐車でございますが、登戸駅に至近の位置にあるために、常に150%程度を超える高い利用率となっております。このため周辺に放置自転車等が多く、大変苦慮しているところでございます。これまでも指導員等により、ほかのあいている施設への誘導などを行うとともに、粘り強い撤去の継続を行っているところでございます。今後も放置自転車等が周辺の交通に支障を来さないよう、引き続き、これらの点で強化を図ってまいりたいと考えております。

次に、生田駅周辺についてでございますが、同駅周辺は、現在放置禁止区域に指定しておりませんが、南口の五反田川沿い道路の放置対策につきましては、生田駅第3自転車等駐場に余裕がございますので、広報車や指導員による広報、指導等を通じ、適切な指導を図ってまいります。

次に、北口スロープ付近の放置対策についてでございますが、生田駅北口付近には、自転車等駐車が不足している現状でございますので、これまでと同様、引き続き駅周辺での用地確保に向け努力してまいりたいと考えております。以上でございます。

○議長（小泉昭男） 青山議員。

◆6番（青山圭一） 五反田川を利用するの取り組みと見解についてお願いいたします。

○議長（小泉昭男） 建設局長。

◎建設局長（引野憲治） 大変失礼いたしました。五反田川を利用するの自転車等駐場の設置についてでございますが、河川上部を縦断的に利用することにつきましては、治水上、また河川維持管理上からも原則として認められていない状況でございます。五反田川は、両側を丘陵に囲まれた高低差の著しい河川でございますが、過去に小田急線生田駅周辺で溢水したこともありますことから、台風などの災害時を想定いたしますと、河川上部を自転車等駐場として利用することにつきましては、大変難しいものと考えております。以上でございます。

○議長（小泉昭男） 青山議員。

◆6番（青山圭一） それぞれご答弁をありがとうございます。それでは、意見、要望を述べたいと思いますが、新たな駐車場等の確保に努めるということですので、ぜひ、それぞれの箇所にて、早期実現に向けて全力で頑張りたいと思います。特に初めに質問いたしました、小田急線読売ランド前駅北口周辺の読売ランド第3駐車場は、駐車場等に自転車が入り切らず、歩道に自転車等が放置されており、本来、歩行者のための歩道

が放置自転車の置き場所と化しているのが現状であります。その結果、小さな子供からお年寄りといった歩行者が、最もひどい場合には、歩道を迂回せざるを得ない状況でして、一たん世田谷町田線に出てからでないと駅へ向かえない状況にもあり、大変危険な状態が続いております。新たな駐車場等を確保されますよう、強く要望をいたします。

また、質問しました読売ランド前駅、生田駅、JR登戸駅の3駅の周辺だけでも放置自転車等の1日の総数は、調査結果合計しまして約1,300台になります。多摩区内すべての放置自転車等の保管所は、800台規模で2ヵ所ですので、これは飽和状態であるのは明らかです。保管所が確保されていなければ撤去活動も思うように進まないの、厳しい財政状況ですが、市所有地を活用するなど、保管所の確保に向けて、ぜひとも全力で取り組むとともに、撤去活動のさらなる強化を強く要望をいたします。

次に、防災対策につきまして、再び建設局長に伺います。去る9月1日に本市も大規模な防災訓練が行われたところですが、本市に大きな災害が発生した場合、市役所第3庁舎7階に設置をされてます川崎市防災センターは、本市の災害対策の中核機能を果たすことになっております。同様に多摩区総合庁舎にも多摩防災センターが設置されてますが、その機能について、また、川崎市防災センターとの連携はどのようになっているのか伺います。また、多摩区内の防災対策における備蓄についても伺います。以上です。

○議長（小泉昭男） 建設局長。

◎建設局長（引野憲治） 多摩防災センターの機能等についてのご質問でございますが、多摩防災センターは、激甚災害の発生により、市役所第3庁舎に設置されております災害対策本部の機能が失われたときに、災害対策本部そのものを多摩防災センターに移して、災害応急対策等が実施できるよう、必要な情報機器等の設備を備えた施設でございます。また、備蓄対策につきましては、地域防災拠点となっております市立中学校を中心に備蓄を進めておまして、これらを補完する施設として公園等に備蓄倉庫を設置し、食糧等の物資や資機材を備蓄しているところでございます。以上でございます。

○議長（小泉昭男） 青山議員。

◆6番（青山圭一） 次に、防災計画について伺います。地域防災計画は、国、県、市の自治体ごとに作成し、予防、応急、復旧に係る災害対策を進めていると伺っておりますが、最近の台風や集中豪雨の風水害について言えば、地球温暖化の関係かと思いますが、降雨の範囲が局地的、集中的になる傾向があると思っております。そこで、川崎市のような地域特性を持った細長い地形において、災害に即応できる、いわば災害対策マニュアルというようなものが必要と考えますが、見解を伺います。

また、阪神・淡路大震災では、避難所に殺到する市民でその生活が相当混乱し、中にはせっかく助かったお年寄りも、避難所生活の中で亡くなってしまう痛ましい事実もあったようです。こうした災害に備えるためにも、行政として地域社会への指導、連携についてどのようなことを行っているのか、あわせて伺います。

○議長（小泉昭男） 建設局長。

◎建設局長（引野憲治） 地域防災計画等についてのご質問でございますが、まず、災害対策マニュアルにつきましては、本市では災害対策基本法に基づき、市民、企業、行政が一体となった防災体制の確立を目指し、地域防災計画を定めているところでございます。この地域防災計画は、本市全体の防災計画をまとめたものでございまして、各区におきましては、具体的な区本部の運営等のきめ細やかなマニュアルを策定し、地域に密着した災害対策を実施しているところでございます。今回の東海豪雨被害を教訓といたしまして、浸水対策を主眼といたしましたマニュアルの見直しに早急に着手してまいりたいと考えております。

次に、地域社会との連携についてでございますが、阪神・淡路大震災の教訓のもとに行政と地域の役割分担を明確にする中で、自主防災組織など相互に連携して、自主的な災害への対処を進めております。具体的には、現在30の中学校区において防災ネットワークづくりを進めており、この一環として避難所ごとに、避難所運営会議の組織化を図っているところでございます。以上でございます。

○議長（小泉昭男） 青山議員。

◆6番（青山圭一） ご答弁ありがとうございました。答弁では、浸水対策を主眼としたマニュアルの見直しに早急に着手をしていくとのことですので、ぜひマニュアルづくりに向け早急に取り組んでいただきますよう要望をいたします。また、地域社会との連携についても、現在30中学校区において防災ネットワークづくりを進めており、この一環として避難所ごとに、避難所運営会議の組織化を図っていくことですので、この点も、さらに組織化を進めていただき、災害に対して万全を期すようお願いしまして、質問を終わります。以上です。